

かわさきしがいこくじんしみんだいひょうしゃかいぎ
川崎市外国人市民代表者会議
(第10期 第2年 第3回 第2日)
ぎじろく
議事録

1 日時 2015(平成27)年12月6日(日) 午後2時～5時

2 場所 川崎市国際交流センター

3 出席者

(1) 代表者 21人

張 氷青、葉 元聡、任 冢林、劉 健全、金 スンオグ、孔 敏淑、崔 想、
河 相宇、タカハシ ライゼール ラモス、牟 鳳菊、ヘイ ジャ フィ、仲田
シリワン、ヒラチャン アスカ、ケゼンダア エドワード、セヌー ジョアキム、
鈴木 イエレナ、バルトコバ オクサナ、園田 泉 ベアトリス、河本
ファビオ 良則、オルソン チャールズ、ドイツトマー ダニエラ

(2) 事務局

石川 室長、町田 担当課長、大田 担当課長、須藤 課長補佐、小沢 担当
係長、丸橋 職員、鈴木 職員、高橋 専門調査員

4 傍聴者 4人

5 会議次第(公開)

(1) 開会のあいさつ

(2) 事務局説明

(3) 議事

(4) 事務連絡

(5) 閉会

【全体会】

セヌー委員長「それでは、これから川崎市外国人市民代表者会議、2015年度第
3回第2日を開催する。今日は、王さん、牟さん、ヴィラマーさん、

シフケンさん、童さんから欠席の連絡が届いている。本日の応援職員の紹介を事務局からお願いする。」

(事務局須藤課長補佐が紹介。)

セヌー委員長「次に、今日の日程と配布資料の確認を事務局からお願いする。」

(事務局須藤課長補佐が説明。)

セヌー委員長「続いて、前回会議のまとめについて事務局から説明をお願いする。」

(事務局高橋専門調査員が資料1に基づき説明。)

セヌー委員長「それでは、議事に入る。まずは、オープン会議についてだ。まずは実行委員会報告をお願いする。」

オルソン副委員長「今回のオープン会議は、いろいろな人と接触できて、いろいろな話が聞けたので非常によかった。いくつか出た意見としては、ワークショップの進行役がもう少しスキルアップした方がよいというものがあった。あとは、事前に何を話し合うのかをPRできたら参加者も話が脱線しないかもしれないという意見もあった。」

セヌー委員長「私からも一言。とくに今回は1期目の人たちが積極的で、事務局の準備や事前の勉強会などをしたことが成功につながったと思う。みなさん、ありがとうございます。それでは、オープン会議の振り返りをしたい。意見をどうぞ。」

任部会長「2つある。参加された方からの意見だが、1つは新しくつくるのではなく、すでにある施設を活用した方が、ラウンジが実現しやすいのではないかとことだった。もう1つは、外国人で社会貢献したいという人がいて、ラウンジができればそこが、外国人が社会貢献するための窓口になったらよいというものだった。」

セヌー委員長「今の意見もそうだが、オープン会議の内容は共通の提言にも関係してくると思うので、次に移りたい。次は、全体での共通提言についてだ。事務局から説明をお願いする。」

(事務局高橋専門調査員が資料3に基づき説明。)

セヌー委員長「意見のある人はどうぞ。」

ディットマー委員「ラウンジの名前についてだが、私も『国際交流ラウンジ』ではない方がよいと思う。中野先生も言っていたが、外国人のためだけに何か特別なものを求めるのは難しいと思う。外国人だけではなく、もう少し幅広い人

を対象としていることがわかる名前の方がよいと思う。もう1つ、目的のところに外国人支援と多文化共生とあるが、外国人支援を前面に出すよりも、多文化共生を全面に出した方がよいのではないかと思う。もっと幅広くマイノリティの支援としてもよいのではないか。」

ヘイ委員「あくまでも仮の名前で、会議で決めた名前がそのままにはならないかもしれないが、名前を考えるとときには外国人の人にもわかるように英語の名前もつけられるように考えた方がよいと思う。」

オルソン副委員長「市内の複数の箇所に設置する、とあるが、最初から複数か所を要求するよりもまずは1か所つくってみて、段階的に増やしていくのが現実的だと思う。」

セヌー委員長「それは当然だ。同時に複数か所はつくれない。どうやって具体的に実現していくかは、市が考えるところだ。私たちとしては、あくまでも複数か所つくって欲しいというのが希望で、あえて最初から1か所とする必要はないだろう。」

事務局高橋専門調査員「少し補足をしたい。外国人支援と多文化共生のどちらを強調するかということだが、この会議があくまでも外国人市民代表者会議なので、外国人支援を前に持ってきた。マイノリティ全般の支援としてしまうと広すぎるように感じる。外国人支援をマイノリティ支援としてしまうと、この会議のオリジナリティもなくなってしまう。マイノリティは多文化共生の方でカバーしていると思う。」

園田部会長「そもそも私たちの出発点の1つには、区役所の外国人登録の窓口がなくなって、どこに相談したらよいのかわからず困っているということがあったはずなので、外国人支援という部分をはっきり残した方がよいと思う。」

セヌー委員長「私も外国人支援という部分をはっきり残した方がよいと思う。」

タカハシ委員「少し話が変わるが、相談できる時間についても具体的に書いた方がよいのか。オープン会議では、24時間対応して欲しいという意見もあった。それは現実的ではないと思うが。」

ディットマー委員「いろいろと要望したいことはあると思うが、まずは実現することが大事なので、あまり具体的ではない方がよいと思う。具体的なことは実現した後で改善していけばよいと思う。それと、外国人支援については、みなさんの意見を聞いて私もその方がよいと思った。」

ゲゼングア委員「オープン会議のときにも何人かから意見として出ていて、資料にも

書いてあるのだが、すべてのラウンジが同じ機能を持つ必要はないと思う。
大事なものは、ラウンジ同士が足りない部分を補い合うようなネットワークを
持つことだと思うので、そこは強調して欲しい。」

仲田委員「アクセスのことが提言には書いていないが。」

セヌー委員長「事務局から説明を。」

事務局高橋専門調査員「アクセスが重要だということ認識している。提言の四角い枠
の中には書いていないが、背景・理由に書いてある。いろいろと要望があると
思うのだが、四角い枠の中はなるべくシンプルな方がいいと思う。」

セヌー委員長「先ほど出ていた名前についてはどうか。」

葉委員「名前については、外国人のためということが前面に出ない方がいいと思
う。」

バルトコバ委員「個人的には、国際交流ラウンジはすごくいいと思う。国際は
イコール外国人にはならないと思うし、交流という言葉も入っている。多文化
共生ラウンジも悪くはないが、ちょっと意味のわからない外国人が多くなるか
もしれない。」

河委員「あまり名前にこだわる必要はないと思うのだが、川崎市では多文化共生施策
というのを市として進めているので、多文化共生ラウンジの方がよいかもしれ
ない。」

事務局高橋専門調査員「名前よりも中身が重要だということはその通りなのだが、何
か名前を決めていただかないと提言の文章が書けない。事務局で勝手に決める
わけにはいけないので、みなさんの了承が必要だ。オープン会議でも提案が
あったし、今日の審議を聞いていても多文化共生ラウンジがよいのではないかと
思ったのだが、それでよいか。」

崔委員「たとえば、英語表記でGLOBAL CULTURE SUPPORT L
OUNGEはどうか。」

セヌー委員長「では、国際交流ラウンジ、多文化共生ラウンジ、GLOBAL CU
LTURE SUPPORT LOUNGEの3つで決をとる。まず、国際
交流ラウンジに賛成の人。(6人)多文化共生ラウンジ。(12人)
GLOBAL CULTURE SUPPORT LOUNGE(0人)
では、ラウンジの名前は多文化共生ラウンジとする。それと、複数か所に設置
もこのままでよいか。(異議なし)それでは、部会審議に移る。社会生活
部会はレセプションルーム。福祉教育部会は第1会議室に移動してください。」

全体会の再開は午後4時35分だ。」

【福祉教育部会】

園田部会長「それでは、福祉教育部会をはじめます。まずは、前回会議の内容を事務局からお願いする。」

(事務局高橋専門調査員が資料1に基づき説明。)

園田部会長「前回の指摘をふまえて、提言案が修正してあるが何か意見はあるか。まずは、子育て支援から。」

金委員「配偶者が日本人である場合の情報の収集について過度に依存してしまうことが問題という箇所があるが、表現が難しいのでもう少しシンプルにできないか。それと、母子健康手帳は小学校入学前までだけではないと思うのでそこも修正してもらえるとよい。」

仲田委員「数値が出てくるところはグラフの方がわかりやすいと思った。」

崔委員「グラフには賛成だが、数字も残した方がよい。」

園田部会長「ほかに何かあるか。なければ高校進学についてはどうか。」

ケゼングア委員「受け入れ体制の整備についてだが、ここはせつかく高校に進学しても途中でやめてしまう子どもがいるからということだと思う。中退率とかのデータがあるとよいのだが、データはありそうか。」

事務局高橋専門調査員「中退率はわかるかもしれないが、それが外国籍だったり、外国につながる子どもとなると難しい気がする。調べてみてわかればくわえたい。」

ヘイ委員「2点ある。1つは、3ページ目の在県枠の説明のところをもう少しわかりやすくして欲しい。もう1つ、在県枠の所在地がわかると助かる。地理的な偏りがあるところポイントだと思うので。」

金委員「ドロップアウトしてしまうことは、『望ましいことではない』は『望ましくない』の方がよい。」

劉委員「在籍率は進学率よりもさらに低く、の部分がよく理解できなかった。どのような意味か。」

事務局高橋専門調査員「進学率は中学校に在籍している人が、試験を受けて高校に進学した率だ。在籍率というのは、対象の年齢層の子どもたちが高校に在籍しているか、していないかの率だ。つまり、中学校にそもそも通っていないか受検をしていない人は、進学率には含まれない。あるいは、高校生のときに

日本に来て高校に在籍していないという人たちも進学率には含まれない。」
園田部会長「時間なので今日はここで終わりにする。ほかに何かあれば、事務局にメールなどで連絡を。次回は修正を確認して、部会としては決定まで持っていきたい。」

【社会生活部会】

任部会長「それでは社会生活部会を始める。今日は提言案の確認だ。まずは事務局から説明をお願いします。」

(事務局丸橋職員が資料5-1に基づき説明。)

任部会長「何かあるか。」

ドイツマー委員「市内の不動産屋にあらためて周知するとあるが、不動産屋だけではなく大家へも周知した方がよいのではないか。」

オルソン副委員長「周知するだけではなくて、相談窓口を設置するという部分が大切だと思う。」

葉委員「窓口の設置には賛成だが、ただ設置して実態を把握するだけではなく、問題解決につながるような機能が必要だと思う。」

タカハシ委員「住宅基本条例だけではなくて、居住支援制度についても実態調査から知られていないことがわかったので、周知した方がよいと思う。」

任部会長「賛成の人は挙手を。(賛成多数)では、事務局は次回また修正案の作成をお願いします。それでは、次はやさしい日本語だ。事務局から説明をお願いします。」

(事務局丸橋職員が資料5-2に基づき説明。)

任部会長「それでは意見をどうぞ。」

ドイツマー委員「1つ気になったのは絵がないとかそういうところ。あとは、内容は少しずつ増えると思う。」

任部会長「漢字が少なくて読みにくいという意見もあるかと思うが。」

タカハシ委員「初めて日本に来たフィリピン人だったら、平仮名のほうが簡単だと思う。」

オルソン副委員長「問題は漢字かひらがなかではなく、表現方法だと思う。資料にあるように『召し上がる』と『食べる』や『土足厳禁』と『靴を脱いでください』のようにわかりやすい表現を使うことが大事。」

セヌー委員長「あとは、各部署がばらばらにつくっているものを集約すること。それ

と表記の仕方についても統一のルールをつくるのが大切だと思う。」

孔委員「私もまずは関係する部局などが会議を開いて、何かガイドラインをつくった方がいいと思う。」

任部会長「ほかに何かあるか。（なし）それでは、今日はもう時間なのでこまですと。事務局は今日出た意見をふまえて修正案の作成をお願いする。次回が修正のできる最後の回になると思う。」

【全体会】

セヌ一委員長「それでは、全体会を再開する。まずは、福田市長への招待状を、事務局を通して市長に届けたことを報告する。2月14日の会議に出席できるように調整してくれているとのことだ。では、部会報告を福祉教育部会からお願いする。」

園田部会長「今日は提言案の確認をしていくつか修正した。1つ目は、調査結果など数字の部分をわかりやすくグラフにしてもらうことにした。2つ目は、高校進学の方で在県卒の学校の場所がわかるような地図を入れてもらうことにした。あとは細かい文章や表現についていくつか修正をした。」

セヌ一委員長「福祉教育部会の委員から何か補足はあるか。（なし）社会生活部会の委員から何か質問や意見はあるか。（なし）それでは、社会生活部会の報告をお願いする。」

張委員「部会長の任さんが用事で先に失礼したので、今日は私が代わりに報告する。まず居住支援についてだが、川崎市住宅基本条例は、不動産屋だけではなく、大家さんにも周知して欲しいということになった。相談窓口を設置する時には、それが解決に結びつくように機能して欲しいという意見が出た。住宅基本条例だけではなく、居住支援制度も知られていないので、居住支援制度の周知も新たに入れることにした。次に、やさしい日本語については、ホームページには文章だけではなく、写真や絵などがあつた方がわかりやすいという意見が出た。ほかには、情報を集約すること、表記の仕方についても統一のルールが必要とといった意見が出た。」

セヌ一委員長「社会生活部会の委員から何か補足はあるか。（なし）福祉教育部会の委員から質問や意見はあるか。（なし）それでは、実行委員会報告に移る。まずは、ニューズレター編集委員会からお願いする。」

ドイツマー委員「今日は主に56号について話をした。市民祭りの記事は56号

に載せる予定だったのだが、55号のスケジュールが少し遅れているので55号に載せることにした。」

セヌー委員長「何か質問や意見はあるか。(なし)次に、市民祭り実行委員会からお願ひする。」

ピラチャン委員「今日はかわさき市民祭りの反省をした。今回は1日だけの参加だったが、結果的には代表者の参加が多かったので分散するよりもよかったのではないかという意見が多かった。改善点としては、テントの企画で次はどうしようということになっていたので、スケジュールを組んだ方がいいのではないかという意見が出た。全体的にはよかったという意見が多かった。」

セヌー委員長「何か質問や意見はあるか。(なし)今日の議事はすべて終わりで。事務局から事務連絡をお願ひする。」

事務局丸橋職員「今年度の年次報告書の作成についてだが、これまでと同じように事務局が案を作成して代表者に確認をしてもらおうという進め方でよいか。」

セヌー委員長「事務局から提案のあった方法でよいか。(全員賛成)では、事務局は案の作成をお願ひする。次回の会議は来年、1月17日の日曜日、午後2時からここ国際交流センターで開催する。これで2015年度第3回第2回の会議を終わりにする。お疲れさまでした。」